令和６年度シラバス

教　科	科　　目	単位数	履修学年・クラス
芸　術	音楽Ⅰ	２	１－１～１－Ａ

１．学習の到達目標

音楽の諸活動を通して創造的な表現の能力を伸ばし、鑑賞の能力を高めると共に音楽に対する豊かな感性と音楽を愛好する心情を養う。
様々な国の音楽を学び人間の多様性と平等の精神を体感し、人権について再認識させる。

２．学習の計画

	学　習　内　容	学　習　の　ね　ら　い
１学期	○発声法の基礎を知り、校歌を歌唱する。 「オーソーレミーオ」 ○楽典・音楽史を学ぶ。バロック音楽を鑑賞する。 歌唱テスト 聴音テスト	音楽の基礎的な知識を学習するため、なじみのポピュラー音楽を歌い、歌唱力、表現力、読譜力を向上させる。 楽典に関する基本的な内容の確認をする。 音楽の歴史の流れを理解させる。 個々の歌唱力の確認をする。 楽典に関する基本的な学習内容を再確認する。
２学期	「オーソーレミーオ」等、その他ヨーロッパ、アメリカの音楽 を歌唱する。 楽典･音楽史を学ぶ。古典派の音楽を鑑賞する。 歌唱テスト 聴音テスト	地域ごとの音楽の特徴を感得させる。 各国の音楽を学び、人間の多様性と平等の精神を体感させる。 西洋音楽の歴史の流れを理解させる。楽典の理解度を確認したい。 個々の歌唱力の確認をする。 楽典に関する発展的な学習内容の確認をする。 合唱曲を学習し、ハーモニーの美しさを体感させる。
３学期	「野ばら」(ｼｭｰﾍﾞﾙﾄ･ｳｪﾙﾅｰ)を歌唱する。 アジア、アフリカの音楽を知る。 楽典･音楽史を学ぶ。ロマン派・近代の音楽を鑑賞する。 邦楽を実習する。(箏曲) 聴音テスト	地域ごとの音楽の特徴を感得する。 楽典に関する発展的な学習内容の確認をする。 音楽の歴史の流れを理解する。 個々のリズム感の確認および評価をしたい。 楽典の理解度を確認する。 和楽器に親しみ演奏方法を理解させる。

３．評価方法・評価の観点

評 価 方 法	考査、提出物、授業態度による。

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の内容	【知識】様々な表現形態による歌唱表現の特徴について理解している。 【技能】姿勢や呼吸などの身体の使い方の技能、他者との調和を意識して歌う技能を身に付け歌唱で表している。	音色、リズム、旋律を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて表現意図をもっている。	親しみやすい J-POP の歌の二部合唱、音楽を幅広く様々な視点から捉えようとすることに関心をもち、主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。

４．使用教科書・副教材

使用教科書	音楽Ⅰ　Tutti＋　(教育出版)
副　教　材	Music Note 基礎から学ぶ高校音楽